星空浴のすすめ vol.21

星空ツーリズムと地域振興

星空ツーリズムという言葉をお聞きになったことがありますか。これは、星がよく見えない大都市圏から美しい星空を見るためにそれが可能な地域へ旅行する等の行動をさし、受入側としてはその地域の持つ美しい星空を観光資源として活用し、観光客の誘致や地域活性化に繋げようとするものです。同じような意味で、「宙（そら）ツーリズム」（国立天文台縣教授が使用）や「アストロツーリズム」（和歌山大学観光学部等で使用）といった言葉もあり、全国に事例があります。

その中でも、先行例として知られた町としては、岡山県の美星町（現、井原市の一部）があげられます。美星町は、晴天率が高い瀬戸内地域にあるため、古くからプロの天体観測施設がありましたが、１９８８年頃から星空を楽しむイベントが開催され、翌年には全国で初めて、美しい星空を守るための「光害防止条例」が制定されました。その後、１９９３年には美星天文台も整備され、現在でも年間約1万人の来訪者があり、「美しい星空」を核とした地域振興を続けています。

また、星空を楽しむイベントも、今では全国各地で開催されていますが、福島県でも１９７５年から１９８４年まで年1回「星空への招待」というイベントが吾妻山浄土平（1回目は磐梯吾妻レークライン駐車場）で開催されました。これは、すでに他界された天体写真家の藤井旭さん（郡山市にお住まいでした）や田村市星の村天文台前台長の大野裕明さんたちが始めたイベントで、当初30数名だった参加者が多い時には2，５００名が集まるイベントとなり、星まつりの原点といわれています。その後、１９９２年から「石川町スターライトフェスティバル」が開催され、20回続いた後、田村市星の村天文台が後継開催地となり、「星の村スターライトフェスティバル」、現在では「星の村天文台☆星まつり」として続いています。このようなことを背景に、天文雑誌では、「星空大国・福島県」といわれたこともありました。現在、福島県全体での星空キャンペーンといったものは耳にしませんが、長野県では「長野県は宇宙県」、岡山県では「天文王国おかやま」、鳥取県では「鳥取県は星取県」を合い言葉に星空を活用したＰＲが行われています。福島県でも来年度から行われる「福島デスティネーションキャンペーン」において、星空の魅力を伝える機会になればよいと思っています。

近年、長野県の阿智村が星空ツーリズムの成功例として取り上げられますが、もともとはスキー場やロープウェイ等がある観光施設「ヘブンスそのはら」の冬季以外の利用客低迷の打開策として始まったことは、参考にすべきだと思います。

なお、この連載は、南会津町版星空ツーリズムといえる「南会津町星空誘客事業」に呼応したものです。この事業では、これまでに専門家による講演会や町民向けの天体観望会の開催、モニターツアーの実施、観察機器の整備、星空ガイド養成講座の開催等を行ってきましたが、これは「星空ツーリズム」受け入れ側の基礎作りといえるものです。南会津町の美しい星空の活用は地域振興に必ず役立ちます。来年度もさらなる充実を目指して、事業が行われますので、よろしくお願いします。

三野輪眞明（東亜天文学会会員）

※光害とは…過剰な光により、夜空が明るくなり、天体観測の妨げになったり、動植物の生育に悪影響をおよぼすこと。公害と混同されやすいので近年は「ひかりがい」ともいわれる。

写真の記事は、天文ガイド1984年10月号より

ご意見・ご要望はコチラまで
商工観光課 電話 0241-62-6200

木の町みなみあいづ 森林（もり）の声を聴く vol.08

合同会社はりゅう林業
所在地：南会津町針生字小坂40-1
設　立：令和３年11月12日
連絡先：0241-64-2221

【問合せ】
農林課 林業振興係
電話 0241-62-6220

きとね Instagram

KITONE NEWS

春を呼ぶロールオン アロマづくり

日　時　３月15日（土）午前10時～午後３時（所要時間20分）
場　所　きとねワークスペース２
人　数　先着20名
参加費　無料

森林で働く人々

「針生の森林再生」「針生の森林の高付加価値化」「不安定な国産材需要からの脱却」を目標に掲げている、合同会社はりゅう林業。南会津町針生地区から「新しい！でも昔からあったらしい！」をキーワードに、故きを温ねて新しきを知る〝温故知新〟の精神で林業を盛り上げています。

従業員の方へのインタビュー

齋藤（ひろき） 宏樹 さん

Q林業に携わったきっかけは？

小さいころから「自然の中で過ごしたい」という想いがありましたが、具体的な関わり方を探せずにいました。そんな中、林業アカデミーふくしまの開講を知り「これしかない」と直感しました。

また、きっかけを好きな言葉でまとめると、「良い意味で理由がない」ことです。名前にも「樹」がついているので、林業に運命を感じました。

Q普段のお仕事の内容は？

主に伐採、造材、ナラ薪生産・配達、クロモジ植栽です。

Q心掛けていることは？

温故知新のバランスを意識することです。教科書と現場作業のバランス、先輩方と同世代（若年）とのコミュニケートのバランスなど、いろんなところでバランスが重要だと感じました。

Q大変なことは？

仕事が天候に左右されること、夏の酷暑です。南会津町は比較的涼しいと思っていましたが、やはり真夏の作業は辛く、1日に4リットルの水分を補給しても熱中症ぎみの症状が出てしまうなど、とても過酷です。

Qやりがいは？

社会の喧騒から少し離れた場所で働くことで、ワークライフバランスを意識して生きられるようになったことにやりがいを感じています。そのおかげで社会に興味・関心を抱き社会を学ぶ意欲が湧いてきました。

また、林業に出会い生活の中に「自然」が入ってきたことで、気持ちが前向きになりました。最初は「これでいい」と思うことは逃げることだと感じていましたが、自然と「これでいいんだ」と思えるようになりました。

Qこれから挑戦したいことは？

林業界の「困りごと・課題」により近いところで、模索・解決しながら貢献していきたいです。

Qどんな町になってほしいですか？

南会津町の広葉樹の魅力に惹かれた者として、昨年2回参加したモクコレ（木製品等の展示販売会）において、全国の広葉樹の需要が高まっていることが実感でき、南会津の広葉樹の存在がさらに有難く思えました。そのような需要に対して適切に供給できる町、森林環境に癒しを求める需要に対しても応えていける町になってほしいと願います。